

Practical education of arts in Hiroshima



地域展開型 2020-2025
芸術プロジェクト





はじめに／広島市立大学地域展開型芸術プロジェクトのこれまで

広島市立大学では、2015年度から2019年度までの5年間、文部科学省の補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を実施し、その柱の一つとして「アートプロジェクト等の教育研究事業の実施」を掲げ、芸術学部を中心に「COC+アートプロジェクト」の展開を進めてきました。

補助期間終了後の2020年度以降も、広島市を中心とした広域都市圏において地域志向の教育を継続・発展させ、「地域展開型芸術プロジェクト(旧COC+アートプロジェクト)」として、アートやデザインによる地域課題の解決や魅力創出に取り組んでいます。2022年度からは第3期中期計画が始動し、「地域志向教育を充実させ、地域で活躍する人材を育てる」という未来ビジョンのもと、芸術学部を軸に地域との連携をさらに深化させながら、実践的な教育研究活動を展開しています。

「地域展開型芸術プロジェクト」は、COC+の枠組みを越えて継続的に進化し、学生たちは広島広域都市圏の歴史・文化・風土を学びながら、地域資源を活かした創造的な取り組みを通じて、行政課題の解決、まちづくり、伝統産業の継承など、多様な地域活性化に寄与しています。また、本プロジェクトは、学生にとって「地域貢献」とどまらない学びの場であり、アートやデザインを通じて社会と接続し、主体性や社会性を育みながら、地域に根ざした創造の価値を紡ぎ出す教育実践の場でもあります。

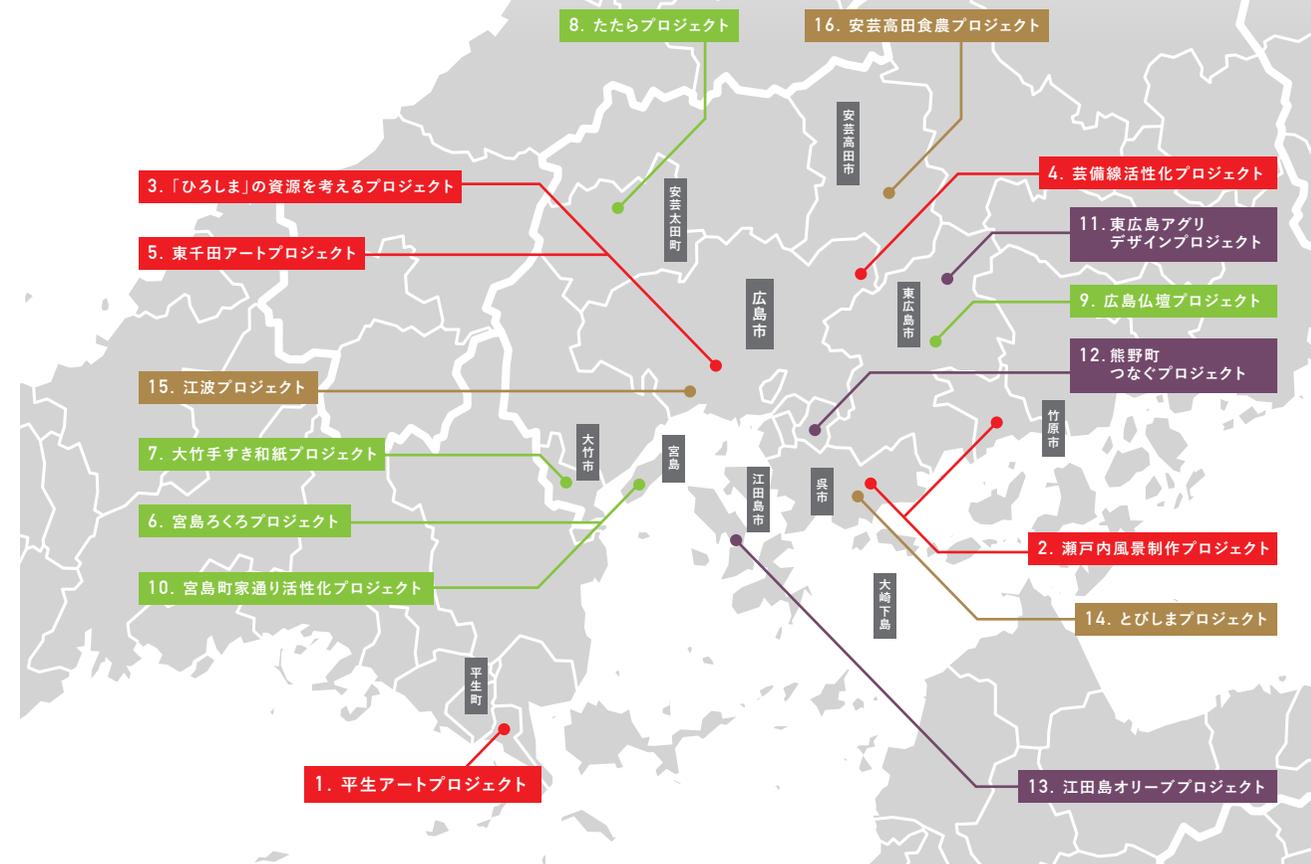
これからは、これまで培ってきた知見と経験を土台に、地域との関係性をより持続可能で重層的なものへと進化させていくことが求められます。そのためには、プロジェクトの成果を「見える化」し、記録・評価・共有の体制を強化するとともに、地域と大学が互いに学び合い、高め合う新たな協働のかたちを創出し続けていく必要があります。

本冊子は、そうした大学の使命とこれまでの5年間にわたるプロジェクトの成果を振り返り、次なる展開を目指していくために制作したものです。本プロジェクトとともに築いてくださった教職員、地域関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

広島市立大学地域展開型芸術プロジェクト代表教員：地域共創センター准教授 三上賢治

広島市立大学地域展開型芸術プロジェクト 2020-2025

はじめに / 広島市立大学地域展開型芸術プロジェクトのこれまで	01
目次+プロジェクトマップ	02-03
01. 平生アートプロジェクト<地域 × アート>	04-05
02. 瀬戸内風景制作プロジェクト<地域 × アート>	06-07
03. 「ひろしま」の資源を考えるプロジェクト<地域 × アート>	08-09
04. 芸備線活性化プロジェクト<地域 × アート>	10-11
05. 東千田アートプロジェクト<地域 × アート>	12-13
06. 宮島ろくろプロジェクト<地域 × 伝統工芸>	14-15
07. 大竹手すき和紙プロジェクト<地域 × 伝統工芸>	16-17
08. たたらプロジェクト<地域 × 伝統工芸>	18-19
09. 広島仏壇プロジェクト<地域 × 伝統工芸>	20
10. 宮島町家通り活性化プロジェクト<地域 × 伝統工芸>	21
11. 東広島アグリデザインプロジェクト<地域 × デザイン>	22-23
12. 熊野町つなぐプロジェクト<地域 × デザイン>	24-25
13. 江田島オリーブプロジェクト<地域 × デザイン>	26-27
14. とびしまプロジェクト<地域 × コラボレーション>	28-29
15. 江波プロジェクト<地域 × コラボレーション>	30-31
16. 安芸高田食農プロジェクト<地域 × コラボレーション>	32



地域×アート	
プロジェクト	実施年度
1 平生アートプロジェクト	2023-2025
2 瀬戸内風景制作プロジェクト	2022-2023
3 「ひろしま」の資源を考えるプロジェクト	2022-2025
4 芸備線活性化プロジェクト	2021-2023
5 東千田アートプロジェクト	2022-2025

地域×伝統工芸	
プロジェクト	実施年度
6 宮島ろくろプロジェクト	2020-2025
7 大竹手すき和紙プロジェクト	2020-2025
8 たたらプロジェクト	2022
9 広島仏壇プロジェクト	2021
10 宮島町家通り活性化プロジェクト	2022

地域×デザイン	
プロジェクト	実施年度
11 東広島アグリデザインプロジェクト	2021-2025
12 熊野町つなぐプロジェクト	2023-2025
13 江田島オリーブプロジェクト	2020

地域×コラボレーション	
プロジェクト	実施年度
14 とびしまプロジェクト	2020-2025
15 江波プロジェクト	2023-2025
16 安芸高田食農プロジェクト	2022

※受託研究等で、活動を行った年度も含む





うみばたシアター準備の様子



平生町でのリサーチの様子

平生アートプロジェクトは、山口県平生町と共同でおこなっている地域展開型芸術プロジェクトです。2023年から現代表現分野の教員・学生を中心とした「芸術キャンプひらおと」というプロジェクトチームで継続的に活動しています。毎年、地域をリサーチしながら地域交流ワークショップや作品展示、作品鑑賞イベントなどを企画しています。2023年に実施した地域の小学生を対象としたワークショップを皮切りに、2024年は野外での映像作品鑑賞イベント「うみばたシアター」やアーティスト・篠藤碧空

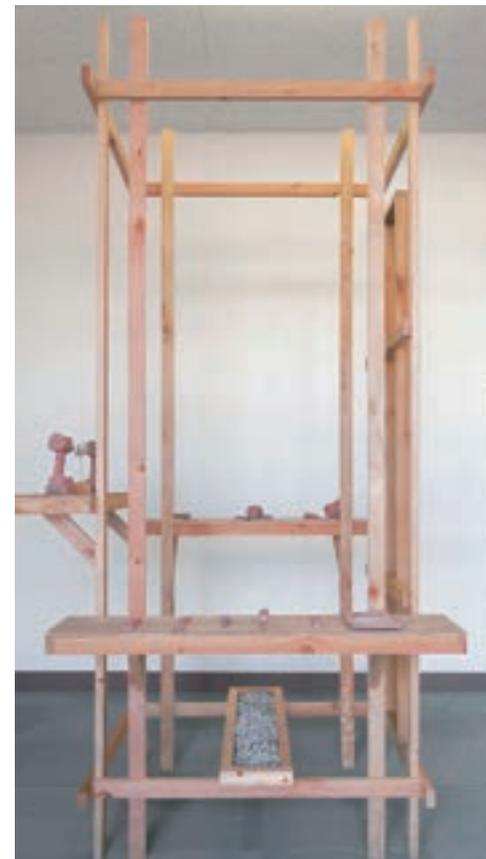
さんの個展「隧道のターニングスペクター」など多数のイベントを開催しました。それぞれの企画を通して、見慣れた/見知らぬ地域を創造的な視点で見直し、地域に根ざした芸術活動が継続的に行われる土壌を醸成していきます。2024年度末には平生町役場にて、それまでの「芸術キャンプひらおと」の活動を写真などでまとめた展覧会「芸術キャンプひらおと アルバム展」を開催しました。2025年は、現代表現分野の学生が平生町に約1週間滞在し、作品制作やリサーチなどを行う滞在制作を実施しました。



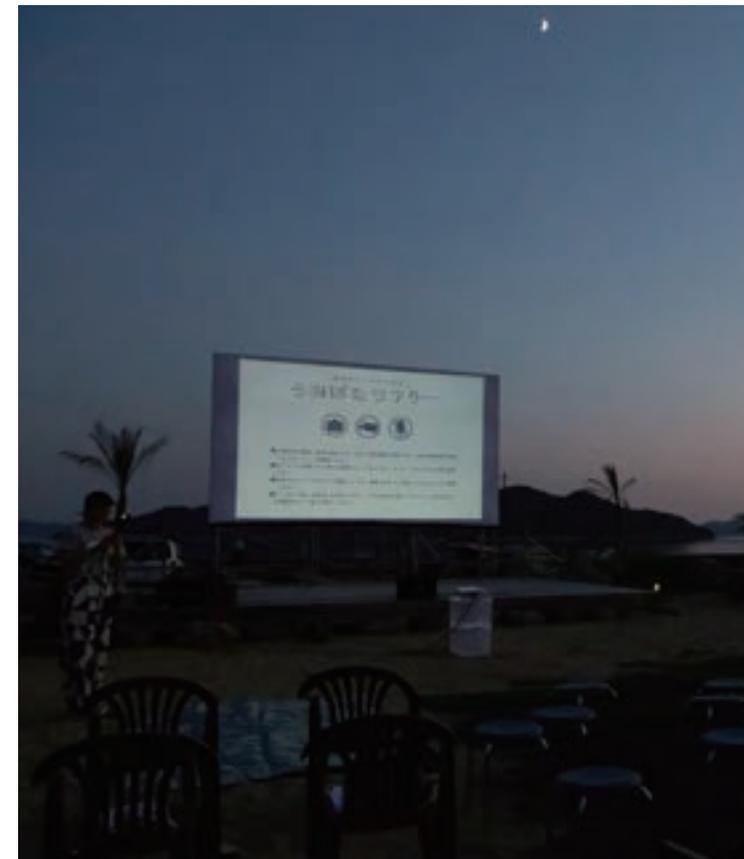
芸術キャンプひらおと アルバム展



佐賀小学校でのワークショップの様子



篠藤碧空個展「隧道のターニングスペクター」



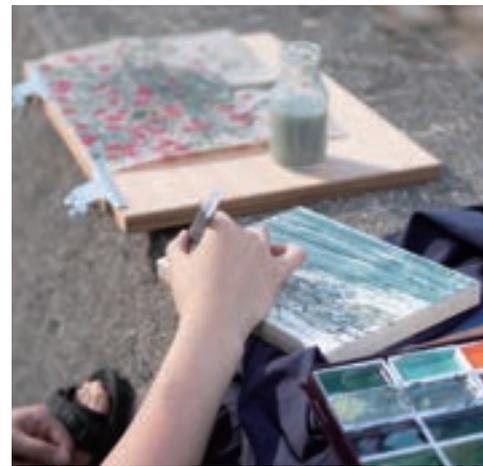
うみばたシアターの様子



視察後の現地制作の様子（呉市）



対象地域の事前調査の様子



作品制作風景

「海路に栄えた広島風景を描く」をテーマに、瀬戸内の風土が独自に形成した歴史文化に着目し、その風情を残す地域を訪ねて現地制作を行うプロジェクトです。芸術学研究科日本画領域に所属する大学院生らが、個々の創作的視点と身体感覚を媒介とする本プロジェクトの作品制作を通じて、広島地域性と深く向き合い、戦後形成された国際平和都市・観光都市「ヒロシマ」ではない原風景としての「広島」を発見し提示す

ることで、地域の魅力を再認識する新たな機会を創出します。参加学生らは、対象地域の事前調査を作品のコンテキスト(背景)として引用し、それに基づく制作プランに沿って、普段使い慣れた日本画材料の新たな表現方法を試みたり、必要に応じて異なるメディアを併用したりしながら作品を制作。完成した作品は、広島市内中心部に位置するギャラリーGで成果を発表しました。



左、右画像「呉にて」展示風景（入船山記念館・旧呉鎮守府司令長官官舎内）



「広島海景-2022年度日本画専攻地域展開型芸術プロジェクト-」展示風景（ギャラリーG 展示室内）



3 「ひろしま」の資源を考えるプロジェクト

実施年度/2022-2025

実施場所/広島市中区基町、
廿日市市宮島町、
尾道市



宮島クルーズ体験



宮島をテーマとした制作物



基町をテーマとした制作物

本プロジェクトでは、広島市中区基町・尾道市・廿日市市宮島町などを訪れ、地域の歴史や風土について学び、作品制作を通じて地域の持つ魅力や課題、資源等を再発見する試みを行っています。宮島ではクルーズを実施して外周を視察し、歴史を学び、尾道では「NPO法人尾道空き家再生プロジェクト」の方からレクチャーを受け、過疎化問題や空き家再生の実施例等を視察しました。基町では、広島市立大学が2014年から実施する「基町プロジェクト」の活動内容や今後

の展開について学び、地域と連携・協働しながら美術という領域でどのように社会と関わる事ができるか考察しました。これらのリサーチから得た知見をもとに制作を行い、学生が企画から立ち上げた作品展を開催しています。私たちの住んでいる広島地域を知り、アトリエや学内では知る事ができない体験を通じて、地域への興味や視野の拡張を期待しています。



エコリアム（広島市中工場）、宮島をテーマとした制作物



基町資料室で講義を受けている様子



エコリアムを視察している様子



広島をテーマとした制作物



2022年に行ったウィンターホタル

広島市道路交通局都市交通部と連携し、広島市から安芸高田市、三次市、庄原市エリアのJR芸備線の利用者減による地域の衰退という地域課題を背景に、芸備線自体の魅力化を図る取り組みを企画しました。プロジェクトでは教員と学生が地域の魅力や資源についてリサーチするとともに、休耕田等を活用した作品展示と地域交流を行い、芸備線沿線の活性化につながる環境資源の活用法を考え、2021年には広島市安佐北区白木町でプロジェクトを実施しました。「地域の財産＝住人」をテーマに地域の方々を



イルミネーション設置風景



地元住民の方々と共同作業

中心とした100名の参加者が思い思いのポーズで撮影し、その写真からのぼり旗を100枚制作しました。制作したのぼりは、地域の方々と一緒に芸備線志和口駅近くの休耕田に設置し、雨の日も雪の日も芸備線を利用する方々に賑やかな歓迎ムードを演出しました。2022年には広島市安佐北区井原市駅周辺でプロジェクトを実施。現地でのインタビューから、地域の方々が協力して取り組む「蛸祭り」をモチーフに、「ウィンターホタル」と題したイルミネーションを計画し、地域の方々30名と一緒に制作を行いました。



ウィンターホタル遠景



ウィンターホタル部分



2021年に行った 100 Wellcome Smiles



「Meetings / やがて陸になる」の展示の様子

広島市中区東千田町は、被爆建物など、広島
の歴史を知る場所として多くの貴重な資料
が地域資源として存在している地域です。
かつては学生の町として賑わっていましたが、
住民の高齢化とともに空き店舗が増え、
以前のような活気がなくなりつつあります。
このような地域の歴史や課題を踏まえ、ア
ートを通じた東千田地域の活性化に取り組
むプロジェクトを行っています。2022年に
活動を開始した本プロジェクトでは、毎年
現代表現分野の学生による展示を開催して
います。地域の歴史や課題について東千田

町のアートスペースや店舗の方からお話を
伺い、現地でのリサーチで得た知識や経験
をもとに制作に取り組み、展示を行いました。
これまでに、地域とギャラリーの関係に
着目した「FLAT CITY 2022」、町の構造や建
築を有機的に捉えた「千田町レインフォ
ードコンクリート」、かつて広島に流れて
いた幻の運河を起点に町とアートの関係性を
考察する「Meetings / やがて陸になる」、作
家の視点を通して町の姿を重層的に変化さ
せた「Colorful Pinholes」の4つの展示を開
催しています。



成果展オープニングの様子



「FLAT CITY 2022」の展示の様子



成果展オープニングの様子



Unitéで開催した「宮島ろくろのかたち展」展示風景



成果展出品



成果展開催時の様子

宮島ろくろの伝統技術を継承し、後継者を育成するとともに、轆轤(ろくろ)産業の新しい展開を目指すプロジェクトです。宮島では、木工芸を中心に全国に誇れる技術を持つものづくり産業が栄えていましたが、近年、後継者の不在から技術の継承が困難となり、産業としての存続が危ぶまれています。その状況を鑑み、芸術学部デザイン工芸学科の漆造形分野では、伝統工芸士藤本悟氏とともに、宮島ろくろの技術継承活動

を行っています。地域の中で伝統産業に触れ、基礎的技術を習得する機会をすることにより、後継者の候補の育成や、体験から生まれる新たな展開を生み出すことを目的としています。プロジェクト参加者が、第49回宮島特産品振興大会で「宮島ブランド大賞(広島県知事賞)」、(下村祐介さん、博士後期2年)、「廿日市市議会議長賞」(任金来さん、同2年)を受賞するなど成果も生まれています(※学年はいずれも受賞時)。



宮島ろくろ作品等のイベントブース出展風景



「広島市立大学 地域展開型芸術プロジェクト 宮島ろくろ実習成果発表展」の様子



宮島細工の伝統工芸士である藤本悟氏により技術指導を受け制作した作品



和紙と漆の素材を組み合わせた学生作品

本プロジェクトは、手すき和紙を通して素材や技術を地域の歴史や風土から見つめ直し、ものづくりが伝承される本質を理解するとともに、地域との持続可能なつながりを築き、その土地に根ざした創作の機会を得ることを目的としています。大竹市の小瀬川(木野川)流域を中心に盛んに作られた「大竹手すき和紙」は、現在も地域住民を中心に組織されている「おおたけ手すき和紙保存会」が400年以上続いてきた伝統技法を守り受け継いでいます。保存会の協力のもと、おおたけ手すき和紙の里で講義や工房の見学を通じ、その歴史や製造工程について理解を深めた上で、コウゾの栽培や紙料(しりょう)作り、大舟を使った「流し漉き」といった一連の作業を行いました。これらの学びを基に、学生それぞれの専門分野の視点から和紙の新たな活用方法を考案。配布用の子供向けパンフレットの制作や作品展の開催など、様々な成果発表を行いました(2024年広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業採択)。



2024年度成果発表展の様子(場所: KOI PLACE)



学生の実習風景(紙料となるコウゾ皮を加工)



学生の実習風景(保存会の講義)



ボランティア活動の様子(コウゾの芽かき作業)



長尾神社の天井画視察



「カナクン」探し（山県製鉄所跡地横の河原）



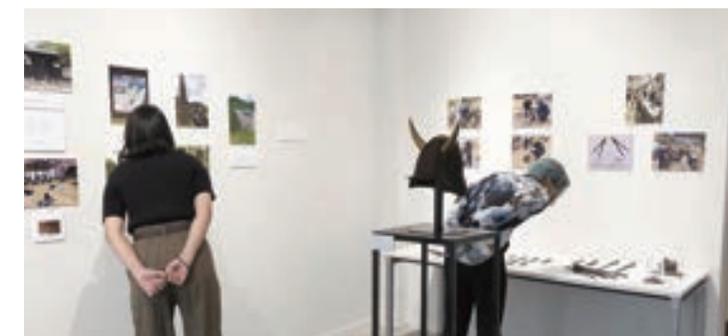
歴史民俗資料館視察

広島県や島根県を中心とした中国山地は、かつて鉄の古式製造法である「たたら製鉄」が盛んで、現在もその跡地が多数存在します。本プロジェクトでは、その「たたら製鉄」に着目し、鉄の魅力伝える試みを行いました。学生が安芸太田町加計地域に点在するたたら場跡地や民俗資料館などを実際に訪れ、「たたら製鉄」の歴史や文化を学びました。また、鉄素材を使用する作家を招へいし、レクチャーやデモンストレーション

を受ける中で、鉄素材の特質・魅力に触れ、その加工方法を体験しました。その後、本学で学ぶ金属造形の技術を活かしながら、地域に根差した作品制作を自由な発想で取り組みました。成果作品展「鑪-たたら-」では、広島鉄産業の歴史に触れながら鑑賞していただけるよう、安芸太田町加計のたたら製鉄遺構見学の様子や作品の制作工程も展示しました。



河原で採取した「カナクン」



Unitéでの展示風景



9 広島仏壇プロジェクト

実施年度/2021
実施場所/東広島市



仏壇製造販売の現場講義（高山尚也氏）



蒔絵の伝統工芸士の工房見学（西原仏壇工芸）



塗師の伝統工芸士の工房実習（蓮池うるし工芸）

本プロジェクトは、広島伝統的工芸品の一つである広島仏壇を題材とした実践的な試みです。広島仏壇の歴史の変遷、様式、技術、地域文化を背景とした特徴など、実地調査を通じて知見を深め、伝統工芸の本来の価値や現代のものづくりが抱える課題を多角的に研究するとともに、その解決策を考察しました。具体的には、広島仏壇を製造販売する企業の協力のもと、伝統工芸士である

塗師（ぬし）や蒔絵師（まきえし）から、立塗、箔押し、蒔絵といった技術を実践を通して学んだ後、課題解決の考察を行いました。このように、地域産業との連携を通じて、学生が専門性を活かせる教育と実践の場を構築することに取り組みました（2021年度 地域実践演習「地域の伝統工芸の今を考える」と合わせて実施）。



10 宮島町家通り活性化プロジェクト

実施年度/2022
実施場所/廿日市市宮島町



学生や卒業生による町家「北之町 厳妹屋」を活用した作品展示



連携先のカフェギャラリー「ぎやらりい宮郷」での展示風景



卒業生によるろくろ技術を活かした照明作品の展示

本プロジェクトは、宮島町家通りの活性化を目的として、宮島島内の地域住民や町家通りに立地する旅館、カフェ、ギャラリー、酒屋などの協力を得て、金属造形、立体造形、漆造形の学生や卒業生が参加し、作品の展示と販売を行う「いつくしまうしろあるき」を企画・開催しました。特に、宮島の伝統産業である宮島轆轤（ろくろ）を応用した作品を出展し、器としての従来の用途にとどまらず、照明作品として現代のライフスタイルに合わせた新しい展開を提示するなど、若い感性によ

る挑戦が試みられました。参加学生にとっては、訪れた観光客や地域住民に対して自身の作品を直接紹介し販売する機会となり、その反応を今後の制作に活かせる有意義な体験となりました。また、地域の人々にとっても、普段見慣れている宮島轆轤の新たな活用に触れる貴重な場となり、宮島轆轤という伝統産業の継承と革新の双方に寄与するとともに、宮島町家通りの魅力づくりに貢献しました。



2種類のブルーベリーで色分けされたデザイン (2022年)



1個ずつナンバーとラベルを変えたデザイン (2022年)



ブルーベリーが目が良いというコンセプトでのデザイン (2024年)

地域で収穫される農産物の加工品について、収穫・加工体験から商品のデザイン・販売までのプロセスを学び、一次産業の課題に対してデザインがどのように有効かを研究し、且つ実践するプロジェクトです。2023年度は、東広島市豊栄町産のブルーベリーを使ったジャム製品を企画し、現地の道の駅で販売しました。学生たちは、事前に黒板ポップの書き方や、商品表示・成分表示につ



東広島市「湖畔の里道の駅福富」での販売実習 (2024年)

いてレクチャーを受けた後、農園でブルーベリーを収穫し、加工施設でジャムを作り瓶詰めをしました。そして3チームに分かれて販促方法を研究し、それに基づいたパッケージ・ディスプレイなどのデザインや制作を行いました。道の駅での販売体験では、各チームが地産商品の魅力を積極的に伝え、多くの方々にご購入いただき、リアルなデザインの現場経験となりました。



グループに分かれておこなったジャム作りの様子 (2023年)



東広島市豊栄町「とよさかブルーベリーガーデン」での収穫体験 (2024年)



グループごとに取り組んだ調理の様子 (2024年)



プロジェクトのオリジナルロゴ



左、右画像 株式会社馬上酒造の日本酒ラベルを学生がデザイン

熊野町つなぐプロジェクトは、2023年より広島県安芸郡熊野町をフィールドに、地域で活躍する「人」とつながり、地域の魅力づくりに取り組んでいます。その一環として2024年・2025年には、熊野町で唯一の酒蔵であり130年以上の歴

史を持つ「株式会社馬上酒造」と連携し、デザインを通じた地域の魅力発信を進めています。具体的には、芸術学部の学生を中心に国際学部や情報科学部の学生も参加し、日本酒のラベルデザインや関連グッズ・商品の制作、試飲販



株式会社馬上酒造での学生プレゼンテーションの様子



日本酒の仕込み体験

売体験に取り組みました。また、熊野町役場や熊野町の地域住民と協働し、「ふるさと納税返礼品」の企画・開発にも挑戦しています。学生にとっては学部を超えた学びと社会とのつながりを体験する機会となり、地域にとっては伝統ある酒蔵の魅力を新しい形で発信する取り組



熊野町内にある「筆の里工房」で開催した学生のデザインによる日本酒販売体験

みとなっています(2023-2024年度 広島市立大学いちだい地域共創プロジェクト採択事業)。



オリーブをテーマに開発したアロマキャンドル



オリーブ農園での摘み取り体験



特別講義でのアイデア出しの様子



オリーブ油のクレンジングオイル



結婚記念日にオリーブのギフトセットが贈られてくるというコンセプトの作品

江田島市で栽培されているオリーブについての調査と、特別講師に塚田忠則氏(元江田島市地域おこし協力隊、元広島市職員)を迎えての、現地でのオリーブ収穫体験を行うなど、江田島オリーブの可能性を広げるデザインや課題解決に

向けたビジュアルコミュニケーションデザインの試作・提案を行いました。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、広島市立大学芸術学部のアトリエで成果展示を実施しました。



広島市産業振興センターの方々にお越しいただきおこなった成果発表の様子



プロジェクト実施場所の大崎下島上空からの風景

広島県呉市豊町御手洗(大崎下島)の重要伝統的建造物群保存地区にある複数の空き家を活用し、地域と協働しながら学生や卒業生のアーティストによるアート活動を通じた地域の魅力づくりに取り組んでいます。美しい瀬戸内の自然環境と歴史的建築物の中で、地域内外の人と交流しながら、街歩きと芸術を繋げるアートイベント「みたらいアートウォーク」を毎年企画し、2022年に芸術学部有志の学生による企画展「てとてと、」を開催しました。夏休みには国際学部、

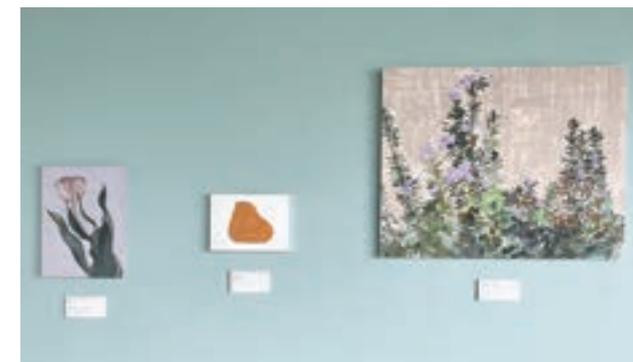
情報科学部の学生が参加し、一定期間島に滞在しながら、島に一つだけある保育所で子供たちに絵本の読み聞かせをしました。また、地域住民と協働で空き家をリノベーションし、作品制作や展示に活用するスペースを作りました。学生が空き家問題や過疎化する島の現状を現地活動や地域との交流を通じて学び、課題に向き合いながら地域の活性化に関わっていくプロジェクトを実施しています。



産婦人科医院跡を活用したプロジェクトの中心施設「MAF」



毎年GWに開催するイベント「みたらいアートウォーク」のチラシ・ポスター



産婦人科医院跡を活用した学生作品展示



江波地区の子供向けに開催したワークショップの様子

広島市中区江波栄町にあった銭湯「よしの湯」は、1992年に閉業するまで地域住民に親しまれてきました。しかしその後は約30年間活用されず、現在は男湯が倉庫として使われているのみです。この貴重な地域資源を活かすため、銭湯跡の活用プロジェクトに取り組んでいます。2023年には現地視察や江波地区の歴史学習を行い、空間の可能性を検討し

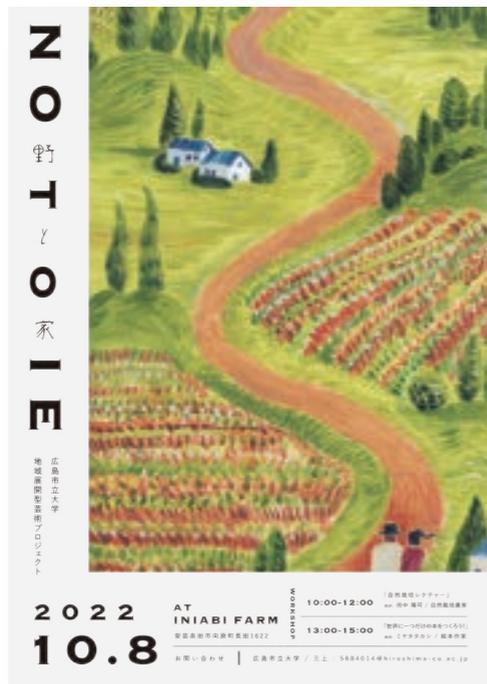
ました。2024年には、芸術学部の学生や卒業生による作品展示を複数回開催し、銭湯空間を活かした表現や地域イベントを実施してきました。そして2025年は、学生の作品展示に加えて、地域住民と交流するワークショップやイベントを展開しながら、銭湯跡の持続的な活用プランを考えています。



左上、右上画像
 過去に開催した展示のチラシ・ポスター



銭湯跡を活用した作品展示の様子



体験プログラム「野と家」のチラシ・ポスター

広島県安芸高田市向原町にある自然栽培の「イニアビ農園」と協働し、食と農を通じてグローバルな課題とローカルな魅力を考える体験プログラム「野と家」を企画・開催しました。本学3学部の有志学生に加え、国際学生寮「さくら」で生活するアメリカ・インドネシア・韓国などからの留学生15名が参加しました。里山の豊かな自然に触れながら、自然農の魅力や課題、里山暮らしに関するレ



自然栽培の体験



参加者全員での集合写真（イニアビ農園前）



自然栽培のレクチャー

クチャーを受け、地元食材を使った料理や収穫体験を通じて、食べる側と作る側双方の豊かさを実感しながら持続可能な地域づくりを考えました。さらに、本学卒業生で絵本作家として国内外で活躍するミヤタタカシさんを招き、地域の子どもたちと大学生が交流するワークショップ「世界に一つだけの本をつくる」も開催しました。

<編集>

代表教員 地域共創センター准教授 三上賢治

デザイン監修 芸術学部教授 納島正弘

デザイン制作 芸術学部デザイン工芸学科視覚造形分野3年 藤國梨音、小林夢歩